

言葉による見方・考え方をはたらかせ、深く思考する生徒の育成

～中学3年国語科「批評の言葉をためる」の実践を通して～

北部中学校 福岡寛也

1 主題設定の理由

「がんばります」「たのしかったです」「すごかったです」毎日の子どもの日記を見てみると、必ずと言っていいほど書かれている言葉である。これらの言葉は使えるパターンが確かに多く、逆に言えば、特にこだわりなく使用できて行を埋めるのには便利な言葉だ。自分でさえ、よく「がんばれ!」「たのしかった?」などと朱を入れていることに気が付く。様々な教科の教科書や資料、書籍などでたくさんの言葉にふれているはずではあるが、なぜ自分の言葉としてそれらの語彙を使用しないのか。その原因の一つに言葉に経験が伴っていないことが挙げられるのではないだろうか。

新学習指導要領では、国語科の目標として、(1)知識・理解(2)思考力、判断力、表現力等(3)学びに向かう力、人間性等の3つの資質・能力が挙げられているが、その前文に「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあり、言語活動と合わせて、「言葉による見方・考え方を働かせ」することも重要とされている。

意識的に言葉に着目して、目標に向かうことによってより深い学びにつながり、実生活につながる能力を身につけさせたいと願い、めざす生徒像を次のように設定した。

めざす生徒像

言葉による見方・考え方をはたらかせ、深く思考する生徒

2 実践の構想

(1) 言葉による見方・考え方について

新学習指導要領(解説編)には以下のような記述がある。

「言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

下線部に着目すると、「対象と言葉、言葉と言葉との関係」を、「言葉の意味、働き、使い方等」に着目して「捉えたり問い直したりする」ことが「言葉による見方・考え方を働かせる」ということになる。

本実践では、これらに意識的に取り組むことによって、より深い理解につなげたいと考える。なお、「より深い理解」とは、書かれていることへの理解にとどまらず、自分たちで考え、派生的・付加的に意味を見出したり、考えをもったりすることとした。

(2) 仮説

実生活とのつながりを意識して、言葉の意味を捉えなおしたり、言葉と言葉の関係性を問い直したりすることで、理解に加えて自分たちなりの考えをもつことができるだろう。

(3) 手だて

手だて①生活とのつながりを意識させる場の設定

教材文を読むにあたって日常的な課題からスタートすることによって、国語科で学ぶことと生活とのつながりを意識し、意欲の高まりと問題意識の高まりをもつことができる考えた。

1. 身近な話題の導入

兄弟関係から出身の小学校の行事に足を運ぶ生徒も多い。また、自分たちの思い出としても小学校の運動会については生徒たちの心に思い出として強く残っている。そこで近年運動会縮小の動きが高まっていることを話題として取り上げ、授業の導入として扱うことにより、身近な問題として自分の考えをもつことができる考えた。

2. 身近な媒介を例にした課題の提示

ニュースを知る方法として、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなどがある。その中でも生徒たちにとって、最も生活に近いものは、インターネットだろうと考えた。そこで、ネットニュースを授業の導入に取り入れることで、生徒たちはニュースに対して興味をもち、意欲的に学習活動に取り掛かることができるだろうと考えた。

また、今回扱う教材文でテーマとなる「批評」はこのネットニュース上でも行われている。取り上げられたニュースに関する記事に対して、様々な人がコメントを記している。このコメントは、双方向にやり取りされている場合もあり、まさに今回の実践で扱う「批評」の実生活版となっている。このコメントについて着目することで、「批評」を自分たちの生活と結びつけて考えていくことができるだろうと考えた。

手だて②言葉の意味を捉えなおす活動

言葉の意味は分かっているつもりでも説明しようとする、難しかったりわからなくなったりしてしまうことがある。そこで立ち止まって自分で説明したり、実際に経験したりすることによって言葉の意味を捉えなおし、筆者の考えに近づいたり、自分の考えが持てるようになると考えた。

1. 重要だと感じる語句について、自分で意味をまとめる場の設定

普段の意味調べでは辞書を使用して語句の意味を調べていくが、今回の単元では、本文を注意深く読むことで、意味の内容をある程度つかむことができる教材となっている。書かれていることをもとに、自分の力で意味を捉えなおし記述する活動を行うことで、言葉の意味について自分なりに捉えなおすことができるだろうと考えた。

2. 言葉の意味を実際に経験する活動の設定

本単元で扱う教材は、「批評」をテーマとして扱っている。その批評について、筆者の述べたい事を本文の読み取りによって行ったあと、実際に自分たちが「批評」をするという活動を行うことによって体験的にその言葉の意味や筆者の考えを捉えなおすことができ、また体験した経験から「批評」についての自分たちなりの考えを持つことができるようになると考えた。

手だて③言葉と言葉の関係性を作り直す場の設定

本文中からキーワードを抜き出し、意味を考えたところで、それぞれの言葉を短冊にして配付し、自分なりの関係図を作成する時間を設定する。これにより、それぞれの言葉がどのような意味で使用され、それがどのように関わって本文の内容を示しているのかを理解し、自分なりに本文の内容が説明できるようになることを期待した。

(4) 単元の構想 (6時間完了)

※教師の支援

ネットニュースのコメントをしてみよう ① ※1

・なるほどと思えたよ ・ちょっとわかりにくいな ・ただの悪口もあったよ
 ・批評って言えないものもあったな ・批評というより批判もあった
 ・批評と批判はどう違うんだろう

「批評」の言葉をためる を読んでみよう

・根拠が大切なんだ ・批評って難しそう ・自己ルールってなんだ
 ・筆者が言いたいのは、もっと深いことじゃないかな

筆者の主張を捉えよう ②

いちばん大事な文はどれ? ※2※3

大切なのは、**自分を理解する**ということだ。できるだけたくさんの優れた文章や小説に親しむこと。
 ・この前提があるから文章がなりたつよ 自分の考えをどう伝えるか以上に、人の言葉や言い方をよく聴き取ろうとする気持ちをもつこと。
言葉を「ためる」ことが重要だと思う。 ・最後だし、こうしてほしいってことじゃないかな
 ・これならタイトルともあってるよ

筆者の言葉や言い方をよく聴き取ろう ③④ ※4※5

キーワードを見つけよう

批評 価値判断の根拠を明確にして、物事を評価することだよ	自己ルール その人の価値判断の根拠のことをこう言っているよ	感受性 外界の印象を受け入れる能力。って辞書にあるよ	言葉のキャッチボール 批評し合うことの比喻だよ。お互いのやり取りの感じが伝わってくるね。
---------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---

感受性のメガネ
 自己ルールのことだけど、自己ルールを通して感受性が作られるから、こう表現しているんだね。

自分を理解する
 自分の自己ルールを自覚し・理解することじゃないかな

キーワードの関係をまとめよう ※6

すぐれた文章に親しむ・人の言い方をよく聴き取ろうとする

↓

言葉をためる

↓

言葉のキャッチボールをする(批評し合う)

↓

自己ルールを知る(自分理解)
 自己ルールを編み直す

↓

感受性が高まる

・批評しあうことで、自分を理解することができるんだね。
 ・しっかり聴こうとすることが、自己理解につながるってことか。
 ・批評をし合うとそんなにいいことがあるんだな

『運動会 午前終了で弁当なし』のニュースを批評し合おう ⑤⑥ 本時 ※7※8

・半日でいいと思う。運動が得意な人もいれば苦手な人もいる。 ・健康や安全は大切。	・大玉おくりなど、全体の種目がなくなるのはさみしい。運動会で、縦の関係ができると思うから。
---	---

・そもそも、そんなに大変なら運動会をなくすのも考えたほうがいいよ。

『運動会 午前終了で弁当なし』のニュースにコメントを書いてみよう。

・運動会で半日になってしまうのはさみしいけど、学年種目などみんなが協力できる種目をなくさない工夫をして行るのがいいな。
 ・生徒や保護者と話し合って、みんなの意見を取り入れることが重要。学校によって様々だね。

今日の授業で学んだこと感じたことは何かな ※9※10

・批評してみて、普段の生活でも、自分のいうことが批評になるようにしたいと思ったよ。
 ・批評することばをしっかりとめるために、これからよく人の言葉や話し方を聴きたいよ。
 ・自分の自己ルールをこれからたくさん見つけていけるように、批評し合っていきたい。

※1 批評することが日常的な事であることに気づき、文章への興味を促すために書評を読み意見を交流する。(手だて①)

※2 文章全体を見ながら思考できるように、「いちばん」大事な文を選ばせることで幾つかの文を比べ考える活動を行う。

※3 探す際に検討をつけやすいように、これまでの学習をふりかえり、筆者の主張がはじめとおわりに書かれていることが多いことを確認する。

※4 困っている子が活動にスムーズに入れるように、ペアトークを取り入れて確認させる。

※5 言葉の意味をおさえるため、意味の分かりづらい言葉は、その自分の言葉で説明できるようにする。(手だて②))

※6 具体的に操作しながら考えられるようにするため、キーワードを短冊にして配付する。(手だて③)

※7 観点を明確にして批評できるよう、確認してから批評をさせる。

※8 実際の批評を通して「聴くこと」の価値を発見させるため、目的を意識させて話し合いをさせる。(手だて②)

※9 実感として分かりづらい生徒がいる場合は、「話し合いをしなかった場合と今でかわったことはない」と問う。

※10 筆者の主張をより深く実感させるため自分の生活と関連付けて考えさせる。

3 単元について

本学級の生徒は、5月に行った「握手」の単元において、本文の言葉を根拠にしながら登場人物の心情に迫るとともに、回想シーンを整理したり、指言葉に着目したりして物語の内容を意欲的に読み取ってきた。また、登場人物の描かれ方や構成、主題などから観点を選び、物語を批評する活動も行ってきた。説明的文章においては、文章の構成を考えながら読み、要旨を捉える活動を行ってきた。筆者の考えについて自分の意見をもつためには、本文に使用される語彙や比喩などのレトリックを含めた言葉の意味をしっかりと捉え、それらがどのように関わり合っているのかを正しく読み取って、文章全体の構図を理解する必要がある。そこで本単元では、筆者の考えを捉えたうえで、重要語句どうしの関わりについて考え文章全体を理解し、さらに実際に批評し合う活動を通して、自分の考えをより深めることができる子どもたちの姿を目ざしたいと考えた。

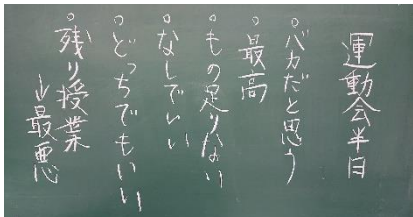
本単元で使用する教材『「批評」の言葉をためる』は、中学生にとって感覚的にわかりにくい「批評」について分かりやすく説明されており、「批評」を通して自分の感覚を知り、自己を変えていくことができるという内容となっている。そのため「批評」することの意義を明確にとらえることができる。本文中には筆者特有の言葉や比喩が効果的に使用されており、言葉選びや書きぶりの工夫なども読み取ることができる。また、批評について考えるとともに、それを普段行っている自分自身の言語活動の在り方まで考えを深めていくことで、これからの学習にもつながっていく教材である。

本単元では、まず導入としてインターネットのニュースに対するコメントを取り上げ、批評が身近なところでも行われていることを実感することができるようにする。またその質も様々あることから、よい批評とは何か、批評と批判との違いは何かという疑問をもって教材に出会えるよう工夫する。本文を読解する際には、筆者の主張を「いちばん大事な文は何か」と問いかけることで、文章の要旨をつかめるようにする。その後、キーワードとなる言葉を抜き出し、それらがどのような関係にあるのか理解させる。そこで、言葉の短冊を利用して具体的に操作しながら図にまとめられるようにする。また、筆者の考えである、「批評し合うこと」で行われることを実感をもって理解するために、ネットニュースを批評する活動を行う。批評の際には、自分の感情のみになっていないか、根拠は示せるか考えさせながら行う。この話し合いで他者の意見を取り入れ、自分の考えを改めて書くことで、「批評し合うこと」の意味を深く捉えられるようにしたい。そして、互いの批評を読み合い、どのような批評がいい批評なのか考える。最後に、筆者の主張に対しての考えをもつだけでなく、生活に生かすため、自分のこれまでの言葉の使い方を振り返り、よりよい言葉の使い方や相手の言葉を聴く態度について考えさせたい。

4 実践と考察

(1) ネットニュースのコメントを見てみよう

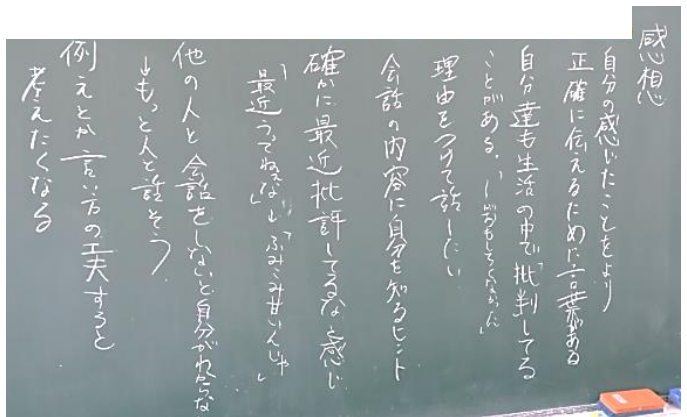
導入では、生活の身近なところに「批評」があるということに気づかせるために、ネットニュースを取り上げた。テニス錦織選手の試合の結果や、川崎の痛ましい事件など、いろいろなニュースがあった。(手だて①) ネットニュースということで、「あのニュースがみたい!」「クリックしてほしい!」などと生徒たちは



資料 1 ネットニュースへの感想

興味をもって画面を見ていた。そして運動会のニュースを見せ、どう思うかと聞いてみると、生徒たちは様々に考えを述べた。(手だて①) この段階では、まだ批評と呼べるものではなく、個々の好き嫌いや思いつきによる発言が多かった(資料1)。

実際に書き込まれたコメントの記述を読み上げると、それぞれの立場の考えについて、「なるほど」「ええ、それはいいすぎじゃない?」「これは、ただのグチでしょ」といったつぶやきがあげられた。そこで、「これもある事柄に対して、根拠をつけて自分の考えを述べるという点で「批評」をし合う場だね。」と投げかけた。すると「批評になってないものも多いんじゃないかな」「そもそも何のために批評するのか」などの反応がみられた。そこで、「批評について考えて文章にした人がいるから、批評ってどういうものなのか、なぜするのか考えながら読んでみよう」と声かけをしながら教材文と出合わせ、初読の感想交流を行った。「自分たちも批評でなく批判してしまっている」「昔に比べれば批評っぽく言えていることもある」「もっと人と話したい」など、自分の生活と結びつけた感想が多くあげられた(資料2)。

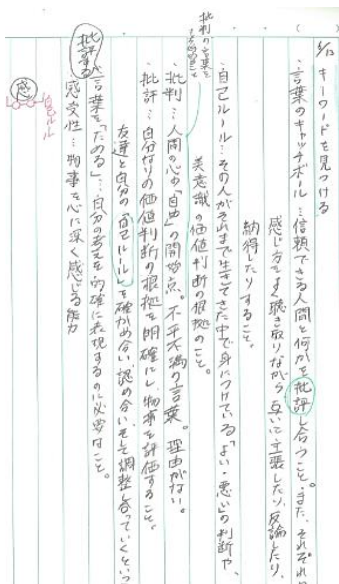


資料 2 初発の感想交流

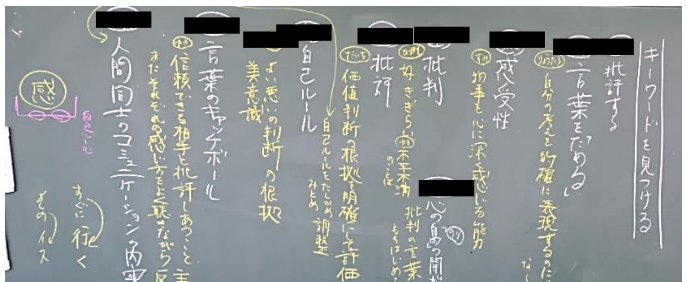
(2) キーワードを見つけよう

重要語句について、着目し意味を考えていくために、まずは本文の中で重要だと思われるキーワードを探す活動を行った。また、それぞれ重要だと感じたキーワードについて自分で本文を読みながらそれぞれの語句の意味を自分の言葉で説明していく活動を行った。(手だて②)

「批評とは?」という疑問から本文を読み始めているため、多くの生徒が批評と批判について、教科書から「批評」という言葉を選び、「批判」というキーワードとともに自分で意味をまとめていた(資料3)。そこで「批評」と



資料 3 キーワードを自分の言葉でまとめる



資料 4 交流の際の板書

は、価値判断の根拠を明確にして物事を評価することという意味を共有した。

また、それ以外にも、「言葉をためる」「自己ルール」「自分を理解する」などのキーワードについて全体で意味の確認を行った(資料4)。

(3) キーワードの関係をまとめよう

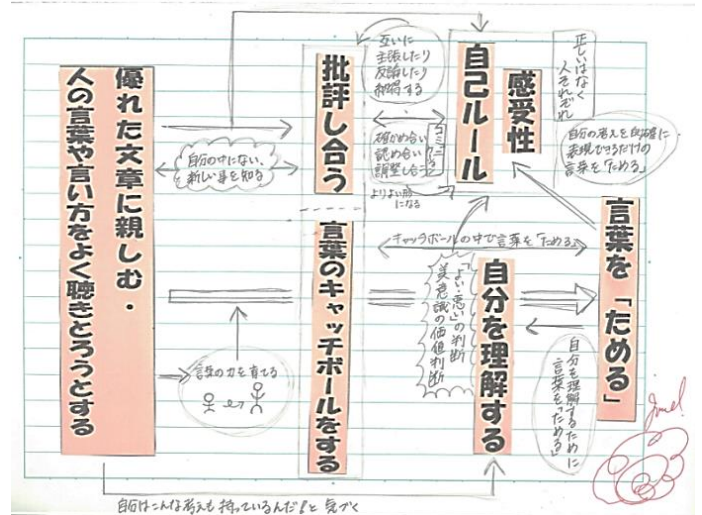
それぞれの言葉の意味を全体で確認したのち、関係性を自分たちで図にまとめる作業を行った。ひとりひとりに短冊をくばり、それぞれのキーワードを自由にノートに配置して図にまとめる作業で、言葉どうしの関係性を確かめ、本文の理解をよりうながせるようにした。

(手だて③)始めはどのように配置していけばよいかわからない生徒もいたが、「教科書を読んで、どういうつながりか考えてごらん」や「どうすると言葉がたままるの?」「最初はどれでその次どうなるの?」など教科書から、それぞれのキーワードの関係性や順序に目を向けて考えさせるよう促した。必死に教科書をめくりながら関係図を作成し、矢印や補足の言葉をつけ足して完成させる生徒もいた。グループで互いに説明し合い、最後は一人の生徒が全体の前で説明する場を設定した。筆者の言う「批評」で行われていることについて、言葉のキャッチボール(批評し合うこと)によって、自己ルールを知り、さらに編み直していくことができること、また、それによって言葉をためることができ、自己理解につながり、そして感受性も高められることを読み取ることができた(資料5)。

(4) ニュースを批評し合おう

これまでの活動を通して、批評はよいものだということを生徒が理解し始めてきたため、「友達とそうやって話していて、ああ、自己理解できたなとか、感受性高まったなと感じたことはある?」と生徒たちに問いかけた。すると生徒たちは「そこまではないですね」という反応だった。「なら、実際にやってみよう」と投げかけ、実際に批評を行うことで、批評についてさらに理解を深められるようにした。

まず、導入で話題とした「運動会が半日で終了」することについて、自分なりの批



資料 5 キーワードの関係を整理する

The worksheet is titled 'ニュースを批評し合おう' (Let's criticize the news together). It includes a section for '1 最初の批評' (1st criticism) with a student's handwritten response: '半日でも、運動会ができるけど、1日と比べて競技数は少なくなるし、運動会の思い出も半日になってしまうと思う。熱中症になるのが心配で練習時間が少なくなると、暑さや疲れが溜まると、熱中症の心配も増える。' (Even for half a day, we can have a sports festival, but compared to 1 day, the number of events will decrease, and I think the memories will be half. I'm worried about heatstroke because practice time will be short, and heat and fatigue will accumulate, so I'm worried about heatstroke). The next section is '2 批評し合う' (2nd criticism), showing a student's critique of a friend's opinion: '暑さが出てからではあつい。熱中症にかりやすい。親も楽になる。午前中だけで盛り上がる。人目の多い所なら別のイベント。やる気が出ない。スタンプもらえない。部活の大会がある。' (It's hot after it starts. It's easy to get heatstroke. Parents will be happy. It will be exciting in the morning. In a place with many people, there will be other events. I won't have the energy. I can't get stamps. There are department activities). Section '4. 振り返り' (4. Reflection) contains a student's reflection: '今日の批評を通して自分以外の他の人の違う意見を聞くことができたし、そういう考え方もあったなと思いました。今までが受業でやってきたことはこういうことかと思いました。自己ルールも少し分かったような気がします。' (Through today's criticism, I was able to hear different opinions from other people, and I realized there were such thoughts. I realized that what I had been doing until now was just copying. I feel like I've understood a little about self-rules). The bottom part shows a screenshot of a news article titled '札幌で運動会ピーク 午前終了で弁当なし 保護者の心境複雑' (Sports festival peaks in Sapporo, ends at noon, no lunch, parents' feelings are complicated). A student's handwritten response to the article is: '熱中症や親の弁当作りが大変などの問題はありますが、運動会が夏休みになると少し涼しくな、お弁当もできると、我が家は子供と一緒に弁当は、家で家族で話しながらできるの、やっぱり運動会は1日や、2日の方が良いと思います。大変な所もあるけど、そこはみんなが協力しあえば、とても良い運動会になるのでは、ないかと思えます。' (There are problems like heatstroke or parents making lunch, but when the sports festival is in the summer break, it's a little cooler, and since we can make lunch together, at home, we can talk while making it, so I think it's better than 1 or 2 days. There are difficult parts, but if everyone cooperates, it can be a very good sports festival, don't you think?).

資料 6 話し合いのワークシートと「いいね」シール

評をプリントに記入した。そしてそれをもとに学級で話し合いを行い、それぞれの立場から批評し合う活動を行った。

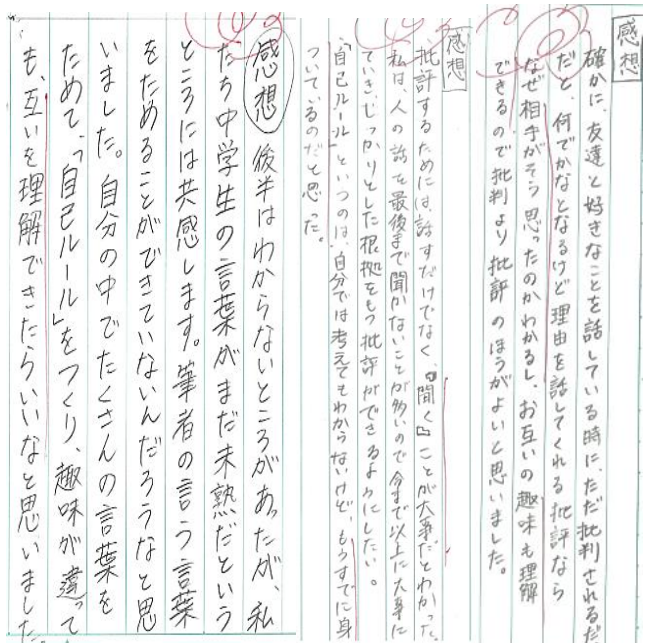
最後に話し合った内容をもとに、もう一度「批評」を書き、グループで読み合った。その際、いい批評だと感じたら「いいね」シールを張るようにした。それぞれのグループで、「いいね」が多かったのはどういう批評かを話し合いを行った。

生徒たちからは、「話し合ったことに理由がつけられていた」「わかりやすかった」「誰もが納得するように書かれていた」「どちらの立場の意見も取り入れていた」「解決策がでていた」「どちらの点のいい点、悪い点を述べ、それをふまえたうえで意見を述べていた」「様々な立場の視点からの意見が書かれていた」「体験談があると聞きやすかった」などの意見があげられ、批評に対する理解の深まりが感じられた（資料6）。

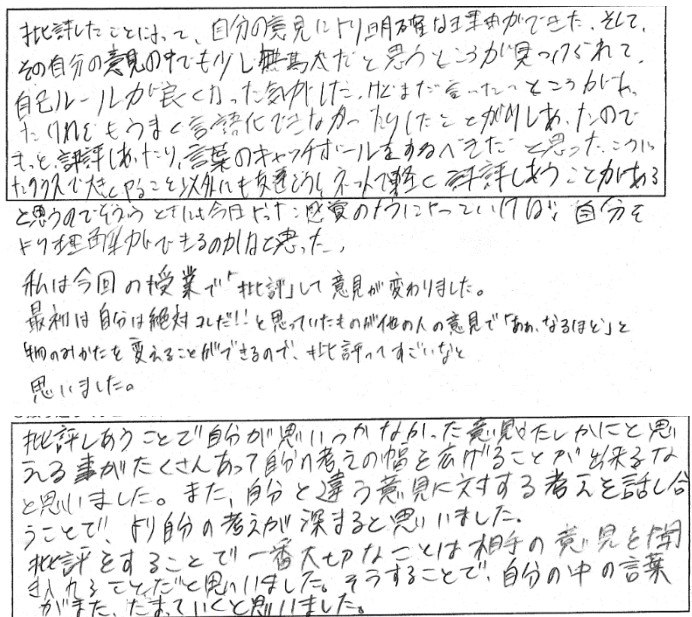
5 成果と課題

手だて①については、教材文に出合わせる前に、身近な媒体であるネットニュースを利用したことで、生徒たちは批評というものを身近にとらえ、初発の感想でも、「批評」についての自分なりの考えを持つことができるように、問題意識を持ちながら本文を読むことができた。また、自分のことに引き寄せて、批評ができるようになりたいと考える生徒もいた（資料7）。

手だて②について、批評ということ自体を経験することによって、「自分の意見により明確な理由ができたそして無駄だと思ふことが見つけられた」や「ものの見方を変えることができるので批評ってすごいなと思いました。」のように批評のよさに気づいたり、「自分をより理解できるようになるのかなと思った」というように、筆者の考えについても実感を持った理解ができた。また、他にも「批評は自分の意見に根拠をつけないといけないので自分がどう考えているのか具体的に考えられるし、自分とは反対の意見にも根拠があった、その通りだなと思うこともあった、反対の意見も含めた自分の考えを見つけることができるところが面白いと思った。」



資料 7 初発の感想



資料 8 ふりかえり

のように、自分なりの批評に対する価値を見出すことができた生徒もみられた。振り返りの中に、「自己ルール」や言葉を「ためる」など、本文での独自の用語も使用されていることから、それらの言葉についても、自らが使用できるほどに理解ができていると考えられる（資料8）。

また、批評をし合ったことによって、友達の批評の良さを考えることができた。「理由が述べられている」「反対立場の意見が述べられている」「体験談を交えている」「相手を尊重しながら意見を述べている」など、自分たちが生活の中で、実践できるレベルでの意識できることを考えられた（資料9）。

手だて③については、関係性をとらえるために、本文とじっくり向き合い、何度も読み返しながらか関係図の配置を考える様子が見られた。また、図の説明を言葉でも記述する生徒もいた。このように、自分の中で関係性をとらえなおすことによって、自分の中で、筆者の考えを捉えなおすことができたと考えられる（資料10）。

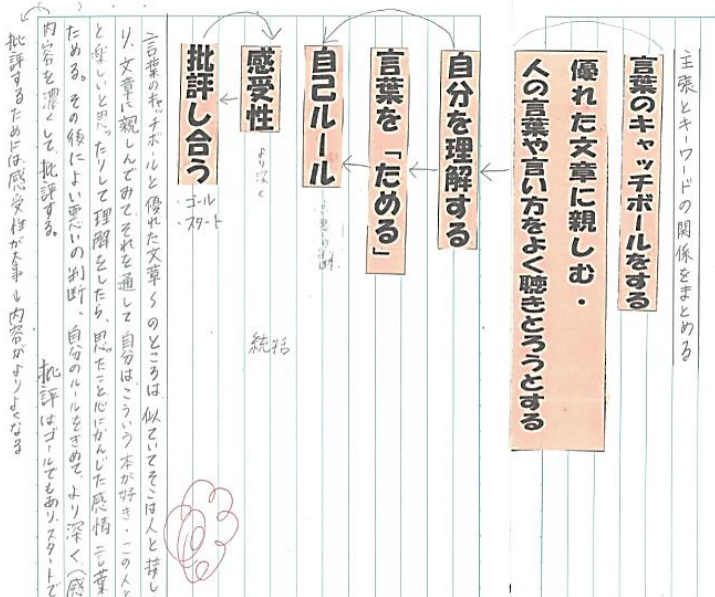
実生活の中から学習をスタートし、本文を自分の課題として読み進めることで、批評ということに対しての考えを持ち、本文独自の言葉や論理も、自分の言葉で置き換えることでより深い理解につながった。

また実際に言葉を経験によって捉えなおすことに **資料 9 「よい批評」についての考え交流** によって、実感を伴った理解と、批評自体について考えを持つこともできるようになったと考えられる。

本実践では、意識的に言葉の意味を捉えなおしたり、言葉どうしの関係性を問い

直したりすることで、言葉を理解し、自分なりの考えをもつことを目標として取り組んできた。さらに生活に近いところから単元を出発することで学びと生活との連続性が意識できるようにした。これらのことは、今自分が何を、何のために、どのような過程で思考しているのかという、メタ認知の視点をもつことが大切であり、普段の授業でも大切にしていきたいと感じた。また、見方・考え方を働かせる手だてを考えていくことで、生活に根付いた、生きてはたらく言葉の力を育てていく実践を行っていきたい。

- T いいねがたくさんついた人の何がよかったかグループで話し合ってください。
- T それでは教えて。
- C1 話し合ったことに理由がかかれていた。ところがよかったです。
- C2 誰もが納得するようにかかっている。
- 賛成も反対もどちらの立場の意見も取り入れて書いている。ところです。
- C3 体験談を交えて書いている。
- 他の意見を尊重しながら書いている。というところがいいという意見ができました。
- C4 デメリットをメリットに変えるように、解決策が書かれていることと、それぞれ立場の良い悪いをふまえたうえで、意見を述べている。ところ、あと批判していない。ところという意見ができました。
- C5 他の班と同じで解決策があることと
- 反対の立場の意見を理由に入れて、うまくまとめているところが良かったです。



資料 10 キーワードの関係性を捉えなおす